

(公社) 日本分析化学会
高分子分析研究懇談会
会員各位

高分子分析研究懇談会
運営委員長 佐藤 信之

第 381 回 例会開催のご案内

第 381 回例会を下記のように開催致します。万障繰り合わせの上、是非ご出席下さいますようご案内申し上げます。今回は新大阪駅前にて開催いたします。交通アクセスの良い場所となっております。多くの会員各位の積極的なご出席をお待ちしております。

記

主催 (公社) 日本分析化学会 高分子分析研究懇談会

日時 2016 年 2 月 22 日 (月) 13 時 30 分 ~ 16 時 50 分

場所 新大阪丸ビル別館 1 階 1-1 会議室
(電話 06-6325-1302, JR 新大阪駅東口から徒歩 2 分)
(最終ページに地図記載)

開会のあいさつ (13:30 ~ 13:35) (東レリサーチセンター) 佐藤 信之

講演 1 (13:35 ~ 14:35)

「化学分析力の活かし方 – 企業内の分析・解析で最大の貢献を果たすには –」
(米森技術士事務所 / (元) 旭硝子) 米森 重明

30 年以上にわたり企業の分析部門で活動してきた。一番の課題は、如何にして分析力を目に見える形にして企業内で貢献するかであった。高分子分析の現場で成果を挙げたいくつかの事例を中心にして、総合的・包括的に「分析力」をどのようにしたら発揮できるかを述べ、その考え方や今後の展望などにつき紹介したい。

ワークショップ 1 (14:35 ~ 15:05)

「高速高分離 GPC/MS を用いた材料中低分子化合物の分析」

(出光興産) 鳥居 孝洋

ポリマー中の添加剤、残留モノマー、黄変物質等の低分子化合物の定性・定量分析は

製品の品質確認・トラブルシュートにおいて重要である。上記成分は従来、抽出前処理を行ったのち、LC, LC/MS 等により定性・定量分析を行っている。前処理操作を簡素化するにはポリマー溶液を直接導入でき、成分分離まで可能な高分離 GPC/MS を活用することが有用だが、通常 GPC では単一の有機溶媒を移動相に用いることが多く、イオン化助剤が使えないため MS のイオン化効率に課題があった。

Waters 社製の高速高分離 GPC (ACQUITY APC) は、1 本のカラムで短時間に移動相を置き替えることができる。今回、APC カラムを用いて GPC/MS のイオン化に適する移動相組成を検討したので適用例を紹介する。

休憩 (15:05 ~ 15:20)

ワークショップ 2 (15:20 ~ 15:50)

「ポリオレフィンの分子構造解析における進展」

(日本ポリケム) 坂田 和也

ポリオレフィンの分子構造解析について、組成分布の解析を中心に最近の技術的な進展を紹介する。温度変調昇温溶離分別による結晶性分布の精密解析、グラファイトカラムを用いた高温相互作用クロマトグラフィーによる非晶性ポリマーの組成分布解析、高温 DOSY による組成分布解析の可能性などを報告する。

講演 2 (15:50 ~ 16:50)

「放射光軟 X 線分光による有機材料の精密状態分析」

(兵庫県立大) 村松 康司

放射光軟 X 線分光法は軽元素材料の化学結合や電子状態の精密分析手法として注目され、特に元素選択的かつ軌道選択的な情報が得られる X 線吸収端構造 (XANES) は様々な機能材料の分析評価に広く利用されている。ここでは、軟 X 線の XANES 測定と第一原理計算による理論解析で行う有機材料の精密状態分析と局所構造解析について説明する。また、兵庫県立大学の軟 X 線放射光施設 NewSUBARU で整備してきた軟 X 線吸収・反射率分析システムについても紹介する。

高分子分析研究懇談会 第 381 回例会参加申込書
 (2016 年 2 月 22 日 (月) 13 時 30 分～ 於 :)
2/15 (月) までにお申込下さい

FAX : 0827-53-8514 (三菱レイヨン : 百瀬)

氏 名	
勤 務 先	
電子メールアドレス	
連 絡 先 (電話/FAX)	
例 会	() 参加する () 参加しない どちらかに○をつけて下さい。
交 流 会	今回は開催しません。
例会での講演, あるいはワーク ショップを引き 受けていただけ ますか。	◇引き受けられる 講演テーマ (60 分) 【 】 ワークショップテーマ (30 分) 【 】
例会における講 演テーマ, 講師 などに関してご 希望・ご意見な どがありました らお願いしま す。	◇講演テーマ 【 】 ◇講師 【 】
研究懇談会への ご意見, 連絡事 項など (会員の 変更事項や近況 報告など) あり ましたらお書き ください。	